

「2024年まで使える!月の形早見盤(2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

自作の教材「月の形早見盤」は、4年生の子どもに、月の形の変化について興味を持ってもらいたいという思いで、教材研究をしたものである。心がけたことは以下の3点だ。

- ・1枚の画用紙の中に、型紙を印刷可能なこと。
- ・4年生の子どもでも、自分が持っている道具だけで、短時間で作れること。
- ・仕組み(構造)が簡単で、使い方が容易に理解できること。

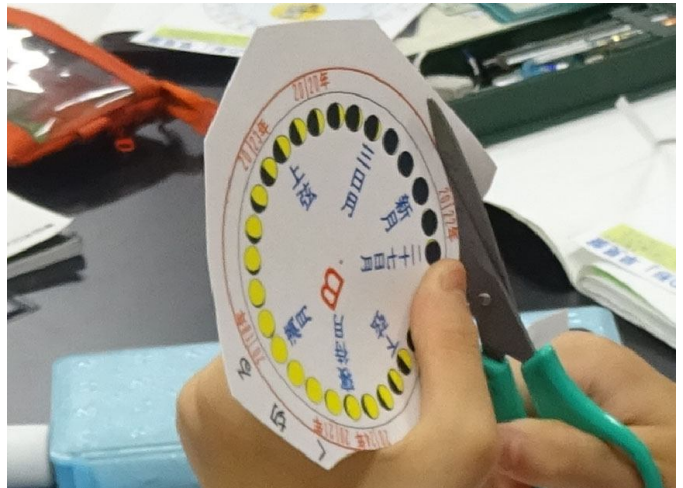
こうした条件のもが一応完成したので、さっそく4年の授業で作らせることにした。



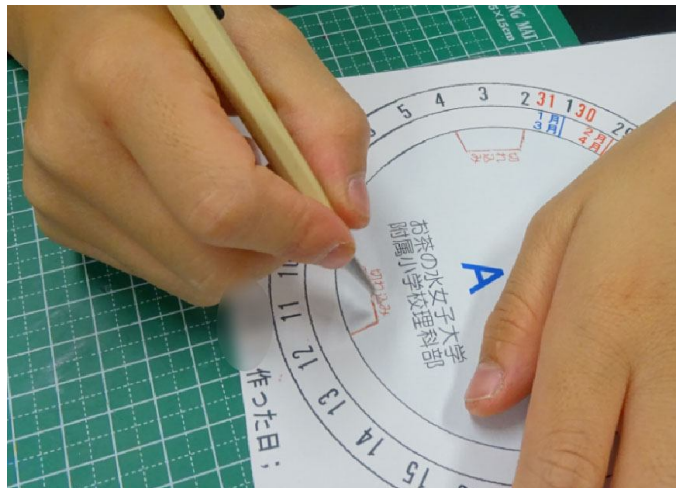
概要を話したあと、子どもたちを教卓に集めて、作り方を説明した。一度すべて作って見せると良い。



台紙(A)を切り取る。ゆっくり、ていねいに切る。



次に円盤部(B)を切り取る。「赤線の中央」を切るのが一番良い。はさみのほうはなるべく向きを変えず、画用紙のほうを回して切るのがコツ。



台紙の3ヶ所の「切れ込み」を切る。カッターナイフとカッティング・マットは、各班に貸し出した。



最後に、台紙(A)ののに切れ込みに、円盤(B)を差し込む。無理な力を加えると、切れ込みのところから破れるので、3ヶ所が難しい場合は、2ヶ所だけでも良い。縦にしても円盤が落ちなければOKだ。